

早稲田大学大学院文学研究科

# 東洋史学コース

説明会資料

2023年度5月

東洋史学コース室

## 早稲田大学大学院文学研究科 東洋史学コースについて

### ■文学研究科東洋史学コースとは

「東洋史学コースでは、アジア諸民族の歴史と文化の研究によって、それぞれの民族がもつ固有な価値体系を究明し、多元的な価値認識を基礎とした世界史像の再構築をめざしている。それは、ヨーロッパに発する近代知の枠組みを再検討する知的営為でもあり、新たな時代を担う者に要請される新しい世界観の構築でもある。講義、あるいは研究指導を通し、史料批判の訓練を行うが、史料批判こそは、歴史的思考法の前提とすべき訓練でもある。そのようにして体得した技術によって 各自の個別研究を深め、新しい世界を開いていくことをコースの教育方針としている。」

### ■東洋史学コースで学ぶこと、目標

**修士課程：**2年間の課程を通じ、研究の基礎となる修士学位論文を作成する技術・知識。

**博士課程：**3年間の課程をもとに、博士学位論文を制作し研究者として自立するための素養、及び個別論文の実績。

### ■東洋史学コース専任教員

柳澤 明 教授（清朝史）

飯山 知保 教授（中国前近代史）

柿沼 陽平 教授（中国古代史）

植田 喜兵成智 講師：（朝鮮史、東アジア史）

### ■現在（2023年度）の東洋史学コース在籍者数：

修士課程1年： 2名

修士課程2年： 1名

修士課程3年： 1名

修士課程4年： 2名

-----

計： 6名

博士後期課程1年： 8名

博士後期課程2年： 4名

博士後期課程3年： 2名

博士後期課程4年： 0名

博士後期課程5年： 3名

-----

計： 17名

○総計：23名

※ 休学・留学者の動向があるため、4月1日時点の見込みの数字。

## 東洋史学コース カリキュラム（2023年度）

【表Ⅰ】特論・演習

| 科目名称                         | 種別 | 時限  | 配当学期 | 単位  | 担当教員                |
|------------------------------|----|-----|------|-----|---------------------|
| 東洋史学特論 1、2                   | 特論 | 金 4 | 前・後期 | 2・2 | 植田 喜兵成智             |
| 東洋史学演習 1-1、1-2               | 演習 | 火 4 | 前・後期 | 2・2 | 植田 喜兵成智             |
| 東洋史学特論 3、4                   | 特論 | 木 3 | 前・後期 | 2・2 | 柿沼 陽平               |
| 東洋史学演習 2-1、2-2               | 演習 | 木 4 | 前・後期 | 2・2 | 柿沼 陽平               |
| 東洋史学特論 5、6                   | 特論 | 木 3 | 前・後期 | 2・2 | 飯山 知保 <sup>*1</sup> |
| 東洋史学演習 3-1、3-2 <sup>*2</sup> | 演習 | 木 4 | 前・後期 | 2・2 | 飯山 知保               |
| 東洋史学特論 11、12                 | 特論 | 火 3 | 前・後期 | 2・2 | 柳澤 明                |
| 東洋史学演習 6-1、6-2               | 演習 | 火 4 | 前・後期 | 2・2 | 柳澤 明                |

\*1 ……2023 年度の特論 6 は、担当教員がサバティカル期間のため、海野典子先生が担当

\*2 ……2023 年度は、演習 3-2 は休講

【表Ⅱ】研究指導

| 科目名称                | 種別 | 時限  | 配当学期 | 単位 | 担当教員  |
|---------------------|----|-----|------|----|-------|
| 東洋史学研究指導 2-1、2-2 M  | 修士 | 木 4 | 前・後期 | *  | 柿沼 陽平 |
| 東洋史学研究指導 2-1、2-2 D  | 博士 | 木 5 | 前・後期 | *  | 柿沼 陽平 |
| 東洋史学研究指導 3-1、3-2* M | 修士 | 木 4 | 前・後期 | *  | 飯山 知保 |
| 東洋史学研究指導 3-1、3-2* D | 博士 | 木 5 | 前・後期 | *  | 飯山 知保 |
| 東洋史学研究指導 6-1、6-2 M  | 修士 | 火 4 | 前・後期 | *  | 柳澤 明  |
| 東洋史学研究指導 6-1、6-2 D  | 博士 | 火 5 | 前・後期 | *  | 柳澤 明  |

※授業については、授業内容・指導の都合により、連続授業あるいは時限の変更などが行われる可能性がある。詳細は担当教員に連絡をとり、確認すること。その他、出席すべき授業などは、指導教員とコンタクトをとりながら決定するのが望ましい。

## ■必要単位について

**修士課程：上記のコース設置科目のうち 14 単位以上、外国語4単位、それらを含めて全体で 32 単位以上取得。※詳細は研究科要項を参照**

外国語は 1 言語または 2 言語で合計 4 単位が必修。

詳細は要項参照。他コース・他研究科・交換協定のある他大学の授業による単位取得も可。なお、単位に関係ない「聴講」もよく行われている。

教職の専修免許を必要とする場合は、コース設置科目（演習・特論）24単位が必要なので、履修時にコース設置科目以外（共通科目・語学など）をとりすぎないように注意。

**博士課程：取得単位が存在せず、すべて「聴講」となる。**

※研究倫理概論の受講について：修士論文および博士学位請求論文の申請要件として、「研究倫理概論」（単位非算入、オンデマンド授業）の受講が義務付けられた。修士課程と博士後期課程の在学学生（及び、退学者も含めた課程博士論文の申請希望者）は、学位論文の申請までに、My Waseda内のWaseda Moodleで当該科目を受講し、確認テストに合格する必要がある（2022年度現在）。詳細は入学後にMy Wasedaやメール等で告知されるので、確認の上受講すること。

〈参考：今年度の講義内容(シラバスより抜粋)〉

### ○ 柿沼陽平先生

**演習** 本授業では戦国秦漢時代の出土文字資料を読む。本年度はとくに睡虎地秦簡「為吏之道」と嶽麓書院藏秦簡「為吏治官及黔首」を逐字的に解読することによって、秦がどのような国づくりを目指していたのかを解明する。報告者は毎回、「原文」・「校訂文」・「書き下し文」・「原注訳」・「注釈」・「考察」等を備えたレジュメを用意して報告し、出席者との討論を通じて訳注原稿を完成する。

**特論** 本授業では、『史記』武帝本紀を輪読する。各自担当箇所の訳注を作成し、最終的には学術雑誌への投稿をめざす。

### ○ 飯山知保先生

**演習・特論** 今年度は後期から担当教員がサバティカルで不在となるため、例年と異なり、木曜 3 限「東洋史学特論 5」・木曜 4 限「東洋史学演習 3-1」を併せて 200 分の授業を構成し、集中して現地調査で収集の碑刻の整理・録文作成（碑文画像からの文字起こしとその読解案の提示）とその分析を行う、非常に専門性の高い授業となる。受講を希望する者は、時限の重複する他の科目を受講することが必須であるなど特別の理由がない限り、演習・特論の両方を受講するものとする。また、アメリカ・イギリス・中国からの訪問研究者が議論に参加し、使用言語は英語・中国語・日本語となる。

※ 例年の演習では、アジア史に関連する英語論著を講読。

### ○ 柳澤明先生

**演習 【前期】**清代の東北（満洲）では、清朝による八旗制を基軸とした統治と、中国内

地からの漢人の移入とによって、多元的・流動的な社会が形成された。清代前期東北の社会・文化の実情を伝える史料は少ないが、中国内地からさまざまな理由で東北に移入した知識人によって書かれたいくつかの著作は、短いながらも貴重な情報を多く含む。その中から、西清『黒龍江外記』を講読する。テキストの読解自体は難しくないと思われるので、むしろ記述内容を他の関連史料と照合しながら検証していくことが主となるだろう。

【後期】清代～近代のモンゴルについては、近年文書史料（檔案）に基づく研究が進展しているが、マクロな政策史・制度史と、特定地域の個別の問題を扱うミクロな社会史に両極化し、地域間・時代間の比較を踏まえた全体像の再構築は今後の課題となっている。本演習では清朝末期のモンゴル南部の状況に対する描写と、モンゴルに関する政策提言が盛り込まれた姚錫光『籌蒙芻議』をテキストとして取り上げ、分担して講読する。

**特論** 【前期】清朝とロシアは、17世紀の最初の接触以来、曲折に富む外交を通じて独特な関係の枠組みを作り上げていったが、その実相を明らかにすることは、清帝国の多元構造を照射する上でも重要な意味をもつ。今年度は、清－ロシア間の貿易を主題とし、特に清朝の対ロシア貿易管理体制に焦点を当てて、その変遷過程を検討する。時期的な範囲は、おおむねネルチンスク条約から1860年の北京条約までとしたい。

【後期】八旗制は、清帝国の特質を理解するための鍵の一つでありながら、史料上の制約もあって、その全体像の解明は必ずしも進んでいなかった。しかし近年、満洲文史料の活用等を通じて、あらたな角度から八旗制に切り込む研究が現れつつある。そうした研究動向をも踏まえつつ、八旗制の形成・変遷過程を探究する。今年度は、東北（特に黒龍江）における八旗制の展開を、ニル編成と人事管理の側面に焦点を当てて検討する。その際、現地側の史料だけでなく、北京に残された諸史料（「鑲紅旗檔」など）と可能な限り照合すること、乾隆年間以降の時期も視野に入れることに留意し、より包括的な像を得ることを目指したい。

## ○ 植田喜兵成智先生

**演習** 本授業では、古代朝鮮および東アジアの歴史資料として重要な在唐百済・高句麗遺民の墓誌を講読する。春学期には百済最後の王である義慈王の子息・扶余隆の墓誌、秋学期には高句麗末期に活躍した、泉蓋蘇文の子・泉男生の墓誌に対する訳註を行う。中国で出土した百済・高句麗遺民の墓誌は、朝鮮古代史の史料であると同時に、唐代史の史料でもある。墓誌史料の特徴を把握し、正確に読解できる能力を獲得することを授業の到達目標とする。

**特論** 【前期】本授業は、朝鮮史の時代区分論について、研究史を概観し、その課題を考察する。対象となる文献は、戦前・戦後の日本、大韓民国（韓国）、朝鮮民主主義人民共和国（共和国）のものを予定している。

【後期】本授業は、朝鮮古代史の基本史料である『三国史記』の史料論について考察する。従来の研究史を整理し、史料としての性格や研究課題を追究する。

## ○ 海野典子先生

**特論** 現在の中華人民共和国には約 2300 万人のムスリム（イスラーム教徒）が暮らしている。本授業では、中国最大のムスリム集団とされる回族（歴史的呼称は回民）の 7～21 世紀の歴史を概観することによって、中国史における「民族」「宗教」「国家」概念の変遷や中国社会の多様性、東アジアとイスラーム世界の関係について考察する。

## ■院生研究会について

東洋史学コースでは、大学院生が専門の枠を超えて交流し相互研鑽を行うとともに、東洋史懇話会運営などコース全体での活動を推進するため、「金曜 5 限」（17 時～18 時 40 分）に、「院生研究会」を開催しています。内容は、毎回担当となる大学院生が研究発表を行い、他の院生から質疑をうけるものです。先輩たちの胸を借りる機会でもあり、また普段知らない他分野の知識を得る機会でもありますので、可能な限り参加してください。

## ■早稲田大学東洋史懇話会・早稲田大学史学会について

**早稲田大学東洋史懇話会**は、早稲田大学東洋史学コースの教員・大学院生とその出身者有志により構成される学術団体です。東洋史学コースの大学院生は全員この懇話会の会員として、その運営の補助を行うことになります。主な活動は、年 1 回行われる大会（3 月第 3 週土曜）への参加と設営及び会誌『史滴』の刊行です。

**早稲田大学史学会**は、早稲田大学の 4 つの歴史学系専攻（東洋史、西洋史、日本史、考古学）により構成される学術団体です。院生の入会は任意ですが、会員・非会員を問わず、年 1 回行われる大会（10 月初旬の土曜）の「東洋史部会」への参加と設営に際し、補助をお願いすることになります。

## ■エクスカッション（博物館見学）について

5 月の GW 明けの土曜日に、学部アジア史コースの新 2 年生と大学院東洋史学コースの新入生を対象に、エクスカッションを行います。午前中は都内の博物館などを見学し、午後は学内でコースに関するガイダンスを行います。教員の先生方と語らい、また大学院の雰囲気、ワセダの雰囲気を知る絶好の機会です。

## ■近年の修士論文・博士論文題目

### □修士論文（近 2 年間）

- ・漢代に於ける羌人の「内徙」
- ・戦国秦漢期の軍事関連法と社会秩序
- ・清代西南中国における改土帰流後の地方統治
- ・漢代における盗賊収拾過程の研究
- ・対琉球政策から見た清代嘉慶期政治史
- ・百濟夫餘出自説と百濟史の展開
- ・春秋戦国「相」官研究
- ・清代前期の西北地区における軍需品調達システムの形成
- ・唐代藩鎮体制下における仏教政策について
- ・沙陀国家論再考

- ・五胡十六国・北朝時代における学校の基礎的考察
- ・清代「熱河地区」における行政の変遷と住民の再編
- ・両漢交替期における爵制
- ・隋唐代を中心とした諸史料における波斯とその人々の移動
- ・李鴻章と清朝の軍事的近代化
- ・五胡十六国・東晋～南北朝時代における仏教と国家
- ・西周の殷遺民に対する支配について

#### □博士論文（近3年間）

- ・清代黒龍江水師營の成立と展開
- ・五胡十六国時代における交通・交易と北アジア世界
- ・オスマン陸軍と「匪賊討伐」（1903-1908）」
- ・「文治国家」の存続：南宋初期の軍事過程(1127-1141年)
- ・高麗の国家祭祀と多元的世界観に関する研究― 円丘祀・八閔会を中心に―

#### ■自主ゼミについて

「自主ゼミ」とは：院生による自主的な勉強会。授業を補完し、また学術交流の場ともなります。参加・見学を歓迎していますので、興味があれば代表に連絡をとってみてください。有志を募っての新しい自主ゼミ開催も大歓迎です。

##### （2023年度前期の自主ゼミ）

「漢文読書会」（幹事：福島理生 {大学院生}、毎週月曜 4 限）

「満洲語勉強会」（代表：柳澤明先生、隔週火曜 5 限）

「朝鮮史料・朝鮮語自主ゼミ」（幹事：韓相賢 {大学院生}、毎週木曜 5 限） 等

#### ■留学について

研究に必要な語学の習得、あるいは実地にて研究を行うため、大学院生のあいだに留学する人は多数います。特に博士後期課程では、留学経験者が全体の8割に達しています。奨学金や生活のアドバイスなど先輩からの手厚いサポートを得ることができるでしょう。留学先は、中国各地（北京、西安、杭州etc.）、韓国、モンゴル、ロシア、ヴェトナム、インドネシア、イラン、シリア、エジプト、モロッコ、トルコなどから、イギリス、フランス、アメリカなど多岐にわたります。

#### ■近年の就職先

修士課程については、教員（公立、私立）を中心に、出版社等、一般企業に就職する人もいます。博士後期課程については、研究職及び教育関係に就く人が多いです。

〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1

戸山キャンパス39号館4階

早稲田大学文学研究科 東洋史学コース室

HP <http://www.waseda.jp/bun-tousi/main.html>

Twitter [https://twitter.com/waseda\\_asia](https://twitter.com/waseda_asia)

※東洋史学コースの詳しい情報については、上記のホームページを御覧下さい。

不明点や質問があれば、コース室までお問い合わせください。

03-5286-3703（コース室直通）

mi\_hirabayashi@aoni.waseda.jp（助手：平林 美理）